

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
家政学部	被服学科	夜・通信	20	30	67	117	13	
	食栄養学科	夜・通信			100	150	13	
	建築・デザイン学科	夜・通信			94	144	13	
	児童学科	夜・通信			96	146	13	
文芸学部	文芸学科	夜・通信		—	98	118	13	
国際学部	国際学科	夜・通信		—	78	98	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		—	102	122	13	
ビジネス学部	ビジネス学科	夜・通信		—	76	96	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/jitsumukeiken_kyoin.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/history/</p> <p>学園の組織と沿革 役員名と寄附行為に記載</p>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	江戸川大学名誉教授	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	共立女子大学名誉教授	2021.4.1 ~ 2024.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	弁護士	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	HOYA（株）社外取締役 （株）日立物流社外取 締役	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	（社福）三井記念病院 長	2020.4.1 ~ 2023.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営

非常勤	—	2020.4.1 ~ 2023.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	一般社団法人共立女子 大学・共立女子短期大 学櫻友会会長 (株) ユミカツライン ターナショナル代表取 締役社長	2021.4.1 ~ 2024.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全授業科目について、シラバスを作成し、公表している。シラバスには、「科目概要」「到達目標」「単位修得目標」「授業形態」「授業方法」「授業の進め方の概要」「各回の授業内容」「事前・事後学修」「成績評価の基準」「評価の方法と配分」「テキスト」「参考文献・参考 Web サイト等」「課題図書」「履修者へのメッセージ」を記載している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.shtml?guestlogin=Kmh006</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業計画（シラバス）策定時、①試験、②レポート、③（授業内）小テスト、レポート、④平常点（学習意欲、履修態度等）、⑤その他の評価方法を適切に用いて成績評価を行うよう計画をしている。また、成績評価実施時は、当該授業科目の到達目標に照らし、評価基準を以下のように定め、厳正な成績評価を実施している。

(成績評価)	(素点)	(内容)
S	90～100点	到達目標を超えたレベルを達成している。
A	80～89点	到達目標を達成している。
B	70～79点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している。
C	60～69点	単位修得目標を達成している。
D	59点以下	単位修得目標を達成できていない。

※グレード・ポイント

S : 4.0、A : 3.0、B : 2.0、C : 1.0、D・X : 0.0

※到達目標：当該授業科目が目指す学修成果のレベル

単位修得目標：当該授業科目で最低限修得すべき学修成果のレベル

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAを導入しており、GPA値については学生に公表している。また、GPAの考え方や活用等基本方針についても履修ガイド、ホームページで公表している。成績の分布状況については、GPAの分布状況について、前期・後期各1回把握し、各学部部に結果を公表している。把握したGPAに基づき、以下のような対応を行っている。①学期GPAが1.4以下の学生に対しては、本人を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行う。②学期GPAが2学期連続1.4以下を、または在学期間のうち3学期分がそれ以下となった学生に対しては、本人および保証人を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行う。③学期GPAが3学期連続1.4以下を、または在学期間のうち4学期分がそれ以下となった学生に対しては、学生の状況に応じ、成業の見込みを教授会で審議の上、退学を勧告することがある。④GPAが高く、学業が特に優秀と認められる学生に対しては、教授会で審議のうえ、表彰を行うことがある。

GPA算出

(科目の成績評点(GP)×単位数) + ... + (科目の成績評点(GP)×単位数) ÷ 登録科目の総単位数 (評価D・Xの単位数も含む)

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/about/purpose/gpa.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表している。各学部において、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムチェックを実施し、各授業科目の到達目標を定めている。各授業科目においては、到達目標の達成水準を基準に成績評価を行っている。したがって、各授業科目における成績評価を適切に行うことで、適正な単位の認定が行われ、卒業要件単位を満たすことにより、ディプロマ・ポリシーの要件を満たすことを保証している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
収支計算書又は損益計算書	ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
財産目録	ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
事業報告書	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/plan/
監事による監査報告(書)	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/kanji/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:毎年度)
公表方法:HP公表(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/plan/)	
中長期計画(名称:第二期中期計画(2018年4月~2023年3月)対象年度:2018年度から2022年度)	
公表方法:HP公表(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/termplan/)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/hyouka.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/hyouka.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 家政学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html) (概要) 家政学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および国立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広く深い教養および総合的な判断力を基盤として、生活者の視点から人間生活について広く追及し、現代社会において人々の生活の向上と福祉に貢献する自立した女性を育成する」ことである。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html) (概要) 家政学部は、各学科の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。 <ul style="list-style-type: none">●生活者の視点から人間生活について広く追及し、人々の生活の向上と福祉に貢献する幅広い教養を有するとともに、それぞれ専攻する被服、食物栄養、建築・デザイン、児童の分野において諸課題の解決に必要な知識・理解を有している。 (知識・理解)●生活者の視点から人間生活にかかわる諸問題についての的確に解析し、他者とのコミュニケーションを通して解決することができる確かな技能を身に付けている。(技能)●人間生活にかかわる諸問題について、基礎的・専門的な知識を包括して生活者の視点から総合的に判断し、対処できる能力を身に付けている。(思考・判断・表現)●修得した知識・技能・判断力を基に人間生活における生活者として主体的に学び、課題を発見、解決していく誠実で豊かな人間性を身に付けている。(関心・意欲・態度)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html) (概要) 家政学部は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などを学生に確実に身に付けさせるために、自然・社会・人文の諸科学の幅広い知識を養うための「教養教育科目」、家政学部の全学科に共通して必要となる、人間生活領域と科学領域の知識を養う「家政学部共通科目」、さらには、それぞれ専攻する被服、食物栄養、建築・デザイン、児童において、高度な専門知識とそれを活用する力を養うための「学科専門教育科目」の 3 つの科目区分を設けて授業科目を配置し、順次性に配慮するとともに体系的かつ効果的な教育課程を編成する。教育課程の編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針は学科ごとに定める
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)

(概要) 家政学部は、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、高等学校等における学修・経験を通じて、基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付け、自ら課題を発見し、その課題に向き合い探求しようとする意欲ある者を受け入れる。なお、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。このような学生を適正に選抜するために、各学科において多様な選抜方法を適切に実施する。

- 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)
- 高等学校までの履修内容のうち、各学科の専門分野の修学に必要な基本的な知識・技能を身に付けている。(知識・技能)
- 身近な社会問題について、これまで身に付けた知識・技能を基に論理的に考え、他者へ客観的に説明することができる。(思考力・判断力・表現力)
- 希望する学科の専門性を修得し、他者と強調・協働して社会に貢献したいという目的意識・意欲を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 課題を課された際に、主体的に探究し、最後まで取り組むことができる態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部被服学科

教育研究上の目的 (https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)

(概要)

家政学部被服学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「被服学を理論と実践の両面から学ぶことにより、高い専門性を有すると共に、伝統に培われた教育理念を踏まえながら知性と情操とを備え、新しい時代の流れに即応して広く社会的に活動ができる女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針

(https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)

(概要)

被服学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技術並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1)被服学領域全般にわたり、基礎的な知識を有し、基本的概念を理解している。また、選択・志向した専門分野については、深い知識を有し、発展的研究や社会活動への応用ができる。(知識・理解)

(2)被服に関する基本的な機能の理解と基本的な知識・技能の修得に加え、以下に示す専門的な知識・技能の一つ以上について深く理解し、具体的な問題に応用した結果を成果物としてまとめることができる。(技能)

(中略)

(3)被服学領域で修得した知識と技能を基に、日常生活及び職務や研究における諸課題について、対処すべき判断力と実行力を身に付けている。(思考・判断・表現)

(4)被服学科における研鑽を通して、常に知的好奇心を保持し、主体的かつ誠実に真実を探求する態度を身に付けている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.htm)

(概要)

被服学科専門教育科目は、被服に関する専門的な知識と技能を修得したうえで、思考力・判断力・表現力を育成するために、以下のように教育課程を編成する。

・身体のプロtectionや体温調整等の生命維持、及び、着用者の自己表現等の被服の有する基本的な機能を理解するために、「被服衛生」に関する科目を配置する。・被服材料・管理、染織文化、造形デザイン、消費科学に関する基礎的な知識、技能を実践的・体験的に学修し、様々な課題に対して応用できる能力を身に付けるよう「被服材料」「被服管理」「染織文化」「被服意匠」「被服造形」「被服平面造形」「被服行動」「被服コンピュータ応用」に関する専門科目を体系的に配置し、「アパレル情報」「染織文化財」「造形デザイン」の3コースを設置する。

・4年次に、被服に関する専門的な知識・技能を修得し、さらに、思考力・判断力・表現力を身に付けた成果を論述、あるいは、表現するために、「卒業論文」「卒業演習」「卒業制作」を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.htm)

(概要)

被服学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 被服について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)

(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語」と「英語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を、さらに「理科」を通して科学的思考力の基礎を身に付けている。(知識・技能)

(3) 高等学校における教育課程を通して、論理的に考え、客観的に説明ができる基本的な能力を有している。(思考力・判断力。表現力)

(4) 急激な社会の変化に対応し、日頃から柔軟な思考ができる。(思考力・判断力・表現力)

(5) 基本的なコミュニケーション能力をもち、困難な課題に対しても自ら積極的に取り組む強い意志を有し、文化的な背景の異なる人々と外国語で積極的にコミュニケーションをしようという意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6) 将来的に、被服に関する研究・開発、設計・生産、流通や教育に従事しようという意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部食物栄養学科 食物学専攻

教育研究上の目的

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

家政学部食物栄養学科食物学専攻の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「本専攻で学ぶ全ての学生に対して社会に通用する広い教養を十分に涵養せしめたうえで、現代の多様な食生活の中にあっても多くの人々がより一層の健康な社会生活が営めることをめざし、食の安全性はもとより、栄養の素材としての食物、並びに食物と健康に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

食物栄養学科食物学専攻は、本学科・専攻の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 食品の種類・機能・成分・性状、食品の調理・加工・保蔵に関する基礎的な知識を有し、食文化について、その歴史・地域性・伝統・諸課題などについて理解している。

(知識・理解)

(2) 化学分析や食品分析についての基礎的な技能を有している。(技能)

(3) 食品の調理・加工・保蔵についての基礎的な技能を有している。(技能)

(4) 食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程についての知識を有し、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価について適切に判断できる。(思考・判断・表現)

(5) 企業における食品開発のほか一般社会生活等において、食物・栄養と健康に関する提案を、他者と協力して導き出すことができる。また、食の専門的リーダーとして、他者に働きかけ、食物・栄養と健康に関する提案を導き出すことができる。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

●食物学専攻では、食生活の改善・向上に役立つ、食物に関する幅広い知識と実践能力を養うため、「基礎領域」「食品科学領域」「健康科学・栄養学領域」「調理学領域」「食文化・食産業領域」「主題研究領域」の6つの領域を設け、体系的・順序性を踏まえて科目を配置する。

●1年次に、食物学・栄養学を学ぶうえで基礎となる基本的知識を獲得するため、「基礎領域」として「生物・化学」に関する科目を中心に配置する。

●2年次、3年次には、「食品科学領域」「健康科学・栄養学領域」「調理学領域」「食文化・食産業領域」に関する専門的な知識・技能を獲得するための講義科目を配置するとともに、食物・栄養・健康に関する様々な課題に対して応用できる能力を身に付けるため、実験・実習科目を配置する。なお、フードスペシャリストの試験合格を目指した科目も併せて配置する。

●4年次に、食物・栄養・健康に関する専門的な知識・技能を修得し、さらに、思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度を身に付けた成果を論述・表現するために「卒業論文」「卒業演習」を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

食物栄養学科食物学専攻は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 食物と栄養、食文化について学ぶために必要な高等学校卒業相当の基礎学力としての知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)

(2) 高等学校まで履修内容のうち、「国語」と「英語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な内容や考えを適確に表現できる語学力を、さらに「数学」と「理科」を通して食物と栄養について学ぶための科学的思考力の基礎を身に付けている。(知識・技能)

(3) 自分の考えを表現し、他者に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)

(4) 他者の考えを理解し、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力・表現力)

(5) 食物と人の健康にかかわる諸問題に深い関心があり、主体・積極的に発言し、学修課題に積極的に取り組むことができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6) 将来的に食品学、栄養学における専門性の高い仕事に就き、社会に貢献しようとする意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部食物栄養学科 管理栄養士専攻

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻の人材養成目的は、管理栄養士養成施設指定基準を遵守したうえで、家政学部の人材養成目的に基づき、「ライフサイクルに応じた栄養指導や病者の食事療法を中心とする栄養指導能力を培い、健康づくりの専門職として医療機関、社会福祉施設、学校教育現場などさまざまな場で活躍できる幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

食物栄養学科管理栄養士専攻は、本学科・専攻の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 人体の構造や機能、主要疾患の成因・病態・診断・治療および食品に含まれる各種成分の知識を有し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の意義について理解している。(知識・理解)

(2) 身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育を行う技能を有している。(技能)

(3) 適切な栄養指導をするための、他者とのコミュニケーションスキルを有している。(技能)

(4) 加齢、疾病など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解し、適切な栄養管理(栄養マネジメント)を行う基本的な考え方を修得している。食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程についての知識を有し、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価について適切に判断できる。(思考・判断・表現)

(5) 保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができる能力を有している。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

●管理栄養士専攻では、ライフサイクルに応じた栄養指導や傷病者の食事療法を中心とする栄養指導能力を養成するため、「基礎」「社会・環境と健康」「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」「食べものと健康」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「臨地実習」「主題研究」の分野に応じた科目を体系的・順序性を踏まえて配置する。

●1年次に、食物学・栄養学を学ぶうえで基礎となる基本的知識を獲得するため「生物・化学」に関する科目を中心に配置する。

●2年次、3年次、4年次には、管理栄養士として必要な基礎的・専門的知識・技能を獲得するための講義科目を配置するとともに、演習科目、実験・実習科目を組合せて配置し、栄養指導における実践能力の育成を図る。

●3年次、4年次には必修科目である「臨地実習」を通じ、大学で修得した知識・技能と現場で得た知識・技能のつながりを理解し、実践能力の獲得を図る。

●4年次に、総合演習を必修科目として配置し、卒業論文・演習を選択科目として配置し、管理栄養士として必要な専門的知識・技能を修得し、さらに思考力・判断力・表現力、関心、意欲、態度を身に付けた成果の統合と総合化を行う。

入学者の受入れに関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

食物栄養学科管理栄養士専攻は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 食物と栄養、人体の構造や機能、疾病について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)

(2) 高等学校まで履修内容のうち、「国語」と「英語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な内容や考えを適確に表現できる語学力を、さらに「数学」と「理科」を通して食物と栄養について学ぶための科学的思考力の基礎を身に付けている。(知識・技能)

(3) 自分の考えを表現し、他者に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)

(4) 他者の考えを理解し、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力・表現力)

(5) 食物と人の健康にかかわる諸問題に深い関心があり、主体・積極的に発言し、社会に貢献する意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6) 将来的に栄養学における専門性の高い仕事に就き、社会に貢献しようとする意欲を持ち、そのための学修課題に積極的に取り組むことができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

教 育 研 究 上 の 目 的 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

(概要)

家政学部建築・デザイン学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「人が生きていくために必要な生活の場を構成している『空間』や『モノ』などを総合的にとらえ、学び、安全・安心・快適な生活を実現するために『建築』と『デザイン』から提案できる専門的知識・実践力を身につけた女性を育成する」ことである

卒 業 の 認 定 に 関 す る 方 針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

(概要)

建築・デザイン学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 人が生きていくために必要な生活の場を構成している『空間』や『モノ』『伝達』などを総合的に捉えることができる、知識・能力を身に付けている。(知識・理解)
- (2) 生活の場を建築やインテリアの分野で設計・施工・管理する技術を身に付けている。(技能)
- (3) プロダクトデザインやグラフィックデザインの分野で設計・制作・ディレクションでできる技術を身に付けている。(技能)
- (4) 『空間』や『モノ』『伝達』などを総合的に捉え、適確に分析・評価を行い、安全・安心・快適な生活を実現するために『建築』と『デザイン』の分野から創造し提案できる専門的知識・実践力を身に付けている。(思考・判断・表現)
- (5) 変化する生活の場の状況に対して、常に意欲的に取り組み、そのあり方を表現し続ける力を身に付けている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

(概要)

- 専門分野をより深く理解し学ぶために、「建築」コースと「デザイン」コースを設ける。また、2年次から人材養成目的をより明確にし、目標達成に向けて学修意欲を喚起するよう、建築コースに「建築分野」と「インテリア分野」を、デザインコースに「プロダクト分野」と「グラフィック分野」を設け、体系的に授業科目を配置する
- 生活の中における「ひと」「もの」「空間」「伝達」の基本的な事項を理解するとともに、建築とデザインのふたつの領域に共通して必要となる知識・技能を修得するための科目を、「学科共通専門科目」として配置する。
- 建築領域における建築・インテリアの知識およびデザイン領域におけるプロダクトデザイン・グラフィックデザインの知識を修得するための科目を、「コース別講義科目」として配置する。
- 「コース別講義科目」において学んだ個別の知識を、テーマに沿って総合化し生活に還元するとともに、数値としての知識を五感で感じとったうえで理解分析するための科目を、「コース別演習実験科目」として配置する。
- 「コース別演習実験科目」において、テーマに沿って情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力を総合的に駆使して、建築・インテリア・プロダクト・グラフィックのデザインを提案するための科目を、分野別の基幹となる演習科目として、履修順序を踏まえて段階的に配置する。
- 知識を学ぶ「講義系科目」、具体的なものに触れて手や身体で学ぶ「実技系科目」、理論や原理を検証し体感的に学ぶ「実験系科目」、講義・実技・実験で学んだ知識をテーマに沿って総合化する「演習系科目」を体系的に配置する。

入学者の受入れに関する方針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

[wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/](http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/))

(概要)

建築・デザイン学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 建築やデザインの分野について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)

(2) 高校までの履修内容のうち、「国語」と「英語」を通じて聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を、「数学」「理科」を通じて科学的思考力の基礎としての内容を、さらに「歴史」を通じて生活、文化を理解するための基礎としての知識・技能を身に付けている。(知識・技能)

(3) 『空間』や『モノ』『伝達』に対する観察力・描写力と、基礎造形力・基礎表現力を有している。(思考力・判断力・表現力)

(4) 『空間』や『モノ』『伝達』などに関連した情報を意欲的に収集し、それらに関連した何かを創り出そうとすることに喜びを感じ、考察、表現できる。(思考力・判断力・表現力)

(5) 学内・学外の行事に積極的に参加し、プロジェクトを進んで計画遂行し、グループの中で活動ができる力を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6) 将来的に建築やデザインに興味を持ち、グループのなかでディスカッションとエスキースを繰り返しながら、創作意欲を刺激し合い、目標を達成する意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部児童学科

教育研究上の目的

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

家政学部児童学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「関係的存在である児童について、主として乳幼児期・児童期を通して児童の健全な発達および自立支援、さらに児童をとりまく人的、物的環境への働きかけのために必要な専門的知識・実践力を身につけた女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

児童学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 保育領域・教科に関する専門的知識を修得し、保育職・教職の役割と責任について理解している。(知識・理解)

(2) 子どもの発達に応じた保育・授業の構成や環境・教材・教具の工夫ができる。(技能)

(3) 個に応じた支援・指導を遂行することができる。(技能)

(4) 保育現場・学校現場で生じている課題やニーズに対して適切な対応方法を考え、説明することができる。(思考・判断・表現)

(5) 自己の保育・教育実践を省察し、自己の学修課題を明確化し実践と理論を結びつけながら自らの実践の向上をめざすことができる。子どもを尊重する態度と保育職・教職に対する使命感と責任感をもって適切な行動ができる。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

●児童の発達と生活を核とした幅広い専門知識や技能、保育職・教職の使命と責任について学修する科目と、実践力を養うフィールドワーク科目を配置し、自己の将来目指す方向を視野に入れて、総合的・体系的に学修できるように構成する。

●家政学や児童学および隣接する諸学問の基礎的かつ最新の研究動向などの知識を得る「講義」科目、児童および児童をめぐる課題やニーズについて適切な対応方法や工夫を思考する「演習」科目、理論と実践を結びつけ、自らの実践への向上を図ることができる「実習・実験」科目を体系的に配置する。

●初年次において「児童学基礎演習」を必修科目として配置し、自己の学修課題を明確化し、実践と理論を結びつけながら子どもを尊重する態度と保育職・教職に対する実践への糸口を見出し、自らの将来への主体的な学修計画を育む。

●専門的知識を修得し、子どもを尊重する態度と保育職・教職の役割と責任について理解するために、「教育と保育」「発達と臨床」「生活と文化」「福祉と共生」の4つの柱からカリキュラムを構成し、基礎から発展までバランスよく体系的に学び、理論的な構成力を身に付けることができるように編成する。

●4年次において児童学の学びの集大成として「卒業研究」を必修科目として配置し、子どもを尊重する子ども観や個に応じた支援・指導ができる技能及び保育職・教職への使命感と責任感を基軸として自己の学びを総括し、諸課題を解決していく能力と実践的態度を身に付けることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

児童学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 児童学を学ぶために必要な高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の知識とリテラシー及び体育、音楽、造形など入学後の修学に必要な技能を有している。

(知識・技能)

(2) 高校までの履修内容のうち、「国語」と「外国語」を通して文化の理解と聞く・話す・読む・書くなど思考を的確に表現できる基礎的なコミュニケーション能力を、「数学」「理科」「情報」を通して基礎的な科学的思考力を、さらに「地理歴史」「公民」「家庭」を通して社会、生活、文化を理解するための基礎的な知識と技能を身に付けている。(知識・技能)

(3) 児童および児童と関連する諸課題を把握し、自分の考えを的確に表現し、他者に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)

(4) 他者の考えを理解し、物事を多面的かつ論理的に考察し、的確に表現することができる。(思考力・判断力・表現力)

(5) 高等学校での学修や課外活動、ボランティア活動等の経験を通して、身近な諸問題について関心を持ち、課題の解決を通して積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6) 将来的に保育・教育現場における専門性の高い仕事をするために、他の人たちと協働し学修課題やアクティブラーニングプログラムに積極的に取り組むことができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 文芸学部文芸学科

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

文芸学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「文学と芸術の世界をさまざまな視点から広く深くとらえることを通じて、文化全般にわたる広い視野と教養をそなえた豊かな人間性を養うことであり、また実社会において、自立した個人として、他者と協調しつつ、主体的に社会の発展に貢献しうる女性を育成することである

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

文芸学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 文芸学に関する幅広い教養と豊かな感性を獲得している。(知識・理解)
- (2) 文芸学に関する専門的な知識を獲得し、正しく理解している。(知識・理解)
- (3) 正確な言語運用能力や情報スキルを身に付け、活用できる。(技能)
- (4) 目的に応じて対象を学術的に分析する力を身に付けている。(技能)
- (5) 自ら課題を発見し、論理的に考察し、表現することができる。(思考・判断・表現)
- (6) 柔軟な思考と批評精神を持ち、他者と対話することができる。(思考・判断・表現)
- (7) 社会の諸課題について理解し、その解決に主体的に関わる能力と態度を身に付けている。(関心・意欲・態度)
- (8) 他者と協働し、友愛の理念に立って市民社会の発展に寄与する能力と態度を身に付けている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

●文芸学を様々な視点から広く捉えるのに必要な知識・技術の修得のために、専門基礎、専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱと発展的な科目区分を行い、1年次から4年次にかけて、各分野に講義科目、演習科目、実習科目を体系的、履修順序を踏まえて配置する。

●学生全員が、学問領域の専門性に触れるとともに、2年次の領域選択を踏まえた知識・技能等を獲得するため、専門基礎分野科目の必修科目として、「文芸入門A～D」を配置する。

●2年次より、自分の興味の在り方と卒業後の進路を考慮して、以下の4つの領域から1つを選択させる。

言語・文学領域

芸術領域

文化領域

メディア領域

●3年次より、自分の興味の在り方と卒業後の進路を考慮して、所属する領域の以下の専修から1つを選択させる。

言語・文学領域（日本語・日本文学専修、英語・英語圏文学専修、フランス語・フランス文学専修）

芸術領域（劇芸術専修、美術史専修）

文化領域（文化専修）

メディア領域（文芸メディア専修）

●論理的、客観的に考察すること、他者の意見を理解し、自己の意見を的確に表現することを重視し、とりわけ演習科目、演習科目においては能動的に学修に取り組むことを求める。

●各学問分野における専門的な知識・技術を修得した成果を総合する論述・表現能力を身に付けるため必修科目として、「卒業論文・卒業制作ゼミナール」「卒業論文・卒業制作」を配置する。

入学者の受入れに関する方針（<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>）

(概要)

文芸学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

- (1)文学・芸術・メディアについて学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)
- (2)高校までの履修内容のうち、特に「国語総合」と「外国語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能を身に付けている。(知識・技能)
- (3)「地歴」と「公民」を通じて、各地域の歴史・生活・文化を理解するために必要な基礎的知識を身に付けている。(知識・技能)
- (4)物事について、事実に基づいて論理的かつ客観的に考えることができ、他人の意見を理解するとともに自分の意見を的確に表現できる力を有している。(思考力・判断力・表現力)
- (5)将来は、日本と世界の文学・芸術・メディア及びその周辺についての学びをもとに、自分らしさを生かして社会に貢献し、豊かな人間性を養い、より良い人生に生かそうとする意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 国際学部国際学科

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

国際学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「国際的な政治・社会の仕組みや国際文化について理解し、国際文化交流・社会活動の方法を身につけ、比較の視点や異文化への豊かな感性をそなえて、国際的な関係を有する内外の場で活躍できる人材を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

国際学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 国際的な政治・経済・社会の仕組みと国際文化について理解する。国際交流の現場において必須な諸文化について知っている。様々な学問を融合・横断した学際的な知識を有している。(知識・理解)

(2) 国際文化交流・社会活動の方法を身に付ける。異文化コミュニケーションを可能にする実践的言語能力や情報スキルを身に付けている。国際的な関係を有する内外の場で活躍できる。(技能)

(3) 比較の視点や異文化への豊かな感性を身に付け、多様な価値観を身に付けている。国際交流の現場における社会科学・人文科学の裏付けを伴う的確な判断力や感性を身に付けている。(思考・判断・表現)

(4) 現代の社会について問題意識を持つ。インターンシップや海外研究旅行、第一線で活躍している方による講演会などを通じて実社会と触れ合う中で、目的意識や実践的能力を高める意欲を有する。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

- 専門教育科目については、世界を社会と文化の両側面から広く捉えるのに必要な知識・技能の修得のために、外国語等科目、専門基礎科目、専門科目の3つの科目区分とし、1年次から4年次にかけて講義科目、演習科目を体系性、順次性を踏まえて配置する。
 - 教養教育科目で学んだ外国語等の基礎力を踏まえ、コミュニケーションの実践的な能力を伸ばし、専門分野と関わる世界の主要地域の言語を身に付けるため、「英語」「フランス語」「中国語」「ドイツ語」「イタリア語」のそれぞれの科目を配置する。
 - 専門基礎科目は、国際的な視野を養うために必要とされる基礎的な知識や基本的な考え方を学ぶために、「国際入門演習」「国際基礎」「ジェンダー関係」の3つの科目群を設置する。歴史や思想・宗教、芸術、文学のほか国際関係や国際経済の現状、政治や経済の分析方法などを専門的に学ぶための導入科目として位置づけている。
 - 国際的な政治・経済・社会の仕組み等を修得するための学修計画の指針を与え、目的意識・問題意識を涵養するため、必修科目として「国際入門演習」を配置する。
 - 国際学の学問分野の基礎的な知識を身に付けるため、「国際基礎」は、「歴史社会・地域」、「文化・コミュニケーション」「国際関係・世界経済」の3系統に区分した専門基礎科目を配置する。
 - 「専門基礎科目」の学修をふまえ、「専攻プログラム」に対応して学修を深めていくために、「アジア文化科目群」「ヨーロッパ文化科目群」「アメリカ文化科目群」「国際文化特論」「コミュニケーション科目群」や、「国際関係科目群」「国際経済科目群」「国際協力科目群」「国際社会特論」の科目群を配置する。
 - 「国際基礎演習」(2年次)、「国際専門演習」(3年次)、「国際卒研演習」(4年次)、「卒業研究」(4年次)を配置し、少人数制の演習を通して、研究能力を養う。
 - 前述の科目を履修するにあたって、学生が各自の興味・関心や卒業後の進路等を考えて、主体的、積極的に選択する学びのメニューとして、以下の17の「専攻プログラム」を設定する。
- ・世界の仕組みとルール：①国際関係、②国際法、③国際経済、④国際協力・国際公共政策
 - ・世界の新しいとらえ方：⑤グローバリゼーション、⑥移民・マイノリティ、⑦ジェンダー、⑧国際コミュニケーション、⑨比較文化、⑩表象文化、⑪都市・コミュニティ
 - ・多様な諸地域の社会と文化：⑫アジア研究、⑬ヨーロッパ研究、⑭アメリカ研究
 - ・言語でつながる社会と文化：⑮英語圏社会・文化、⑯中国語圏社会・文化、⑰仏語圏社会と文化
 - 上記のほか、英語を母語とする教員による、グローバル社会に関する多彩な科目を選択して学ぶことのできるプログラム「GSEプログラム(Global Studies in English)」を設定する。

入学者の受入れに関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

国際学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 国際学部で学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)

(2) 高校までの履修内容のうち、特に「国語」、「外国語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能を身に付けている。(知識・技能)

(3) 「地理歴史」、「公民」、「数学」を通じて、各地域の歴史や文化、社会の仕組みについて、その特性を理解したり、数量的な分析を行ったりするための基礎的知識を身に付けている。(知識・技能)

(4) 国際学部での学びを通して、異文化への豊かな感性や多様な価値観、国際交流の場で求められる的確な表現力や判断力を身に付けようとする意欲がある。(思考力・判断力・表現力)

(5) 国際的な政治・経済・社会の仕組みや国際文化について関心を持ち、学んだことを将来のキャリアや社会活動に活かそうという意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 看護学部看護学科

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

看護学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき「幅広い教養を基盤とした豊かな人間性を養い、看護専門職として必要とされる知識・技術・態度に基づいた看護実践能力を修得するとともに、将来にわたり看護の向上に資するための研鑽能力を養い、人々の健康の保持増進に寄与することにより、自ら自己の将来を切り開き、自律的に社会に参画・貢献しうる女性を育成する。」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

看護学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 看護の対象を包括的に捉えるための幅広く深い教養と専門的知識を身に付けている。(知識・理解)
- (2) 科学的根拠に基づき、看護を計画的かつ安全に実践するための理論的知識を身に付けている。(知識・理解)
- (3) 看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。(技能)
- (4) 個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を査定し、より質の高い看護を実践できる能力を身に付けている。(技能)
- (5) ケア対象のあらゆる発達段階、健康状態、心理状態に対応して援助できる能力を身に付けている。(技能)
- (6) 保健医療福祉チームと関係性を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した看護を提供できる能力を身に付けている。(技能)
- (7) 客観的思考を活用した判断と意思決定によって、根拠に基づいた看護を提供することができる。(思考・判断・表現)
- (8) 最新の知識・技術を用いて、必要とされる看護を判断し、計画的に実践することができる。(思考・判断・表現)
- (9) 看護の対象となる人々の健康レベルを成長発達に応じて査定し、身体状態との関係を説明することができる。(思考・判断・表現)
- (10) 人間の尊厳と権利を擁護する能力、高い倫理観を基盤としたヒューマンケア態度を有している。(関心・意欲・態度)

- (11) 看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させる意欲を有している。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

- ケア対象者について理解し、その対象に応じた健康課題を適切に査定し、健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践力、及び看護実践のための専門性を発展させる能力を育成することを目的とし、『専門基礎科目』、『専門基幹科目』、『専門展開科目』、『看護研究』に区分している。
- 看護学を学修する上での基礎・基盤となる知識・能力・態度を身に付けるため『専門基礎科目』を配置する。なお、『人体の構造と機能』、『疾病と治療』、『看護の基盤』、『社会と医療』に区分して1・2年次を中心に配当する。
- 専門的職業人として必要とされる看護学分野の専門的な知識と技術、態度の修得を目標として、『専門基幹科目』を配置する。なお、健康生活を支えるための看護技術の原理と基礎を学ぶための『基礎看護学』領域の科目を1・2年次に配当し、看護対象者のライフサイクルに応じ、その健康を援助するための看護活動の実践の基礎を学ぶために、『成人看護学』『老年看護学』『小児看護学』『母性看護学』『精神看護学』『地域・在宅看護学』領域の科目を1年次から4年次まで配当する。
- 各科目で修得した知識・技術・態度を、看護実践の場面に適用し、理論と実践を統合する能力を養い、保健医療福祉チームと連携・協働して看護を提供することができるように『臨床実習』科目を編成する。
- 医療・保健・福祉の領域において看護専門職としての役割を果たすために、将来にわたり自己研鑽を継続し看護実践のための専門性を発展させる能力の育成を目的に『専門展開科目』や『看護研究』を配置する。
- 専門展開科目は、学生が卒業後看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、各専門領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護職としての専門性を発展させ、看護実践能力を開発する能力を育成することを目標としている。
- 看護研究は、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させるために、自発的な能力開発を継続するための能力や基礎的な研究能力を育成することを目標としている。
- 看護師養成課程における国家試験受験資格の取得に必要な科目を1年次から4年次かけて体系的・系統的、段階的に配置して、看護実践能力の修得を目標としている。

入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

看護学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 看護学について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能、特に汎用的能力（コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー）の基礎となる力を有している。（知識・技能）

(2) 高等学校まで履修内容のうち、「国語」と「英語」を通じて聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な内容や考えを適確に表現できる語学力を、「化学」「生物」を通じて科学的思考力の基礎を身に付けている。（知識・技能）

(3) 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を有している。（思考力・判断力・表現力）

(4) 看護実践場面において、その場に適した思考力・判断力・表現力を用いて、看護を実践できる能力を身に付ける意欲がある。（思考力・判断力・表現力）

(5) 自己の考えをしっかりと持ちながらも周囲の意見を尊重できる協調性を有しており、積極的に医療チームにかかわることができる。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

(6) 将来に渡って、自ら課題を探究する意欲や行動力を備え、自己の資質向上に努める主体的な姿勢を身に付け、看護専門職として社会貢献に関心を持つことができる。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

学部等名 ビジネス学部ビジネス学科

教育研究上の目的 (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>)

(概要)

ビジネス学部ビジネス学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「ビジネスの場で活用できる知識・技能と必要な教養を身に付け、他者と協働してリーダーシップを発揮できる人材を養成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>)

(概要)

ビジネス学部ビジネス学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に幅広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

- 1.幅広い教養と「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」分野の基礎的な知識を修得し、その上で一つの分野に関して知識を深めている。(知識・理解)
- 2.「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」分野の基礎的な技能を活用し、自ら主体的に活動するとともに、他者を支援することができる。(技能)
- 3.課題を解決するために、基礎的な知識・技能を活かして理論的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- 4.身に付けた知識、技能、思考力・判断力・表現力をビジネスの世界で発揮することに強い関心と意欲を有する。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針（<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>）

(概要)

ビジネスという広がりの中で「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の各分野の基礎的な知識を正しく理解しつつ、一つの分野を中心に深い知識を修得すること、また、グループワークを通じて主体性を伸ばし、協働力を身につけることを目的とし、以下の「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門発展科目」に区分する。

1. 「専門基礎科目」は、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の各分野を学ぶ目的や学問体系を理解するため、導入教育の科目として「ビジネス入門」を配置する。また、ビジネスという広がりの中で学びの土台を作るため、各分野に入門又は基礎的な科目を配置する。さらに、理論的知識を実践事例と関連付けることで、活用できる知識にするためのPBL型授業の入門演習を配置する。各授業科目を通じて基礎的な知識・技能を身に付け、ビジネス社会への関心や意欲を高めることを目的としており、全て必修科目とする。
2. 「専門基幹科目」では、「専門基礎科目」で得た知識・技能との繋がりを意識しながら、3年次より主として学びを深めていく分野を選択し、専門性を発展させていく上で基盤となる、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の各分野の基礎的な科目を配置する。また、「専門基幹科目」においても、理論的知識を実践事例と関連付けることで、活用できる知識にするためのPBL型授業の基礎演習を配置する。各授業科目の教育内容に応じて、他者の意見や考え方に触れたり、グループワークの結果を適切に表現したりするなど、ビジネスという広がりの中で、各分野の知識・技能の基礎を固めることを目的としており、全て必修科目とする。
3. 「専門発展科目」は、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の4つの分野に、主として学びを深めていくための専門科目を配置する。専門発展科目では、学生の学修思考・関心・意欲や目指す将来像に応じて、主として学びを深める分野（主専攻）を選択し、当該分野の科目を中心に履修しつつ、適切な履修指導のもと、他の分野の科目も履修することで、包括的な視点に基づく分野横断的な能力と選択した分野における深い知識や応用力を身に付ける。また、これまで学修した知識・技能等を活かしつつ、適切な指導により、自ら設定したテーマを研究したり、グループディスカッション等を通じて協働力を身に付けたりするための「ゼミナール」を配置する。さらに、4年間の集大成として研究成果を論文にまとめ、成果発表までを行う「卒業論文」を配置する。そのため、専門発展科目のうち、「3年ゼミナール」、「4年ゼミナール」、「卒業論文」は必修科目とし、それ以外の科目は選択科目とする。

入学者の受入れに関する方針（<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>）

(概要)

ビジネス学部ビジネス学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得をめざし、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

- 1.ビジネスの世界に関心を持ち、「経営」「マーケティング」「経済」「会計」等の学修に必要な基礎学力を有している。(知識・技能)
- 2.他者の意見や考え方に触れながら、自らの考えを整理・表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。(思考力・判断力・表現力)
- 3.主体性を持ってコミュニケーション能力を高めていくことに強い意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
家政学部	—	36人	12人	1人	4人	31人	84人
文芸学部	—	23人	8人	4人	0人	13人	48人
国際学部	—	20人	5人	1人	0人	9人	35人
看護学部	—	9人	7人	5人	7人	8人	36人
ビジネス学部	—	11人	6人	2人	0人	2人	21人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			463人				463人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp/KgResult/japanese/index.html					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、副学長を委員とする全学FD委員会を組織し、FDの企画立案や具体的な活動の実施を行っている。具体的には、以下のような活動を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回「授業見学会」を開催している。原則として全ての授業科目について、教職員の見学を可能とし、教員が総合の授業を参観することによって、学内におけるアクティブラーニングの授業を共有化し、学生が能動的に学修に参加する授業への転換を助けるものとする。 ・年に複数回、FD研修会を開催している。学内外の講師による、授業方法やシラバスの在り方等、授業方法に関する事例についての講演の実施や、グループワークの実施により教員の教育方法の向上に努めている。 ・年度当初に、新任教員を対象としたFD研修会を開催し、成績評価の在り方等、大学教育における基本的な事項の堅守を行っている。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a %	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c %	編入学 定員	編入学 者数
家政学部 被服学科	90人	100人	111%	360人	399人	110%	0人	6人
家政学部食 物栄養学科	105人	120人	114%	420人	435人	103%	0人	3人

家政学部 建築・デザイン学科	100人	118人	118%	400人	438人	109%	0人	4人
家政学部 児童学科	150人	160人	106%	600人	578人	96%	0人	0人
文芸学部 文芸学科	350人	363人	103%	1,400人	1,575人	112%	0人	46人
国際学部 国際学科	250人	269人	107%	1,000人	1,077人	107%	0人	25人
看護学部 看護学科	100人	104人	104%	400人	401人	100%	0人	0人
ビジネス学部 ビジネス学科	150人	174人	116%	450人	507人	112%	0人	1人
計	1,295人	1,408人	108%	5,030人	5,410人	107%	0人	85人

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
家政学部	393人 (100%)	8人 (2.0%)	354人 (90.1%)	31人 (7.9%)
文芸学部	312人 (100%)	8人 (2.6%)	256人 (82.1%)	48人 (15.4%)
国際学部	251人 (100%)	4人 (1.6%)	223人 (88.8%)	24人 (9.6%)
看護学部	101人 (100%)	4人 (4.0%)	96人 (95.0%)	1人 (1.0%)
合計	1057人 (100%)	24人 (2.3%)	929人 (87.9%)	104人 (9.8%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 日本生命保険、積水ハウス、日本製紙、バンダイ、あいおいニッセイ同和損害保険、ファーストリテイリンググループ、鹿島建設、大塚商会 他
(備考)

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】 全授業科目について、シラバスを作成し、公表している。シラバスには、「科目概要」「到達目標」「単位修得目標」「授業形態」「授業方法」「授業の進め方の概要」「各回の授業内容」「事前・事後学修」「成績評価の基準」「評価の方法と配分」「テキスト」「参考文献・参考 Web サイト等」「課題図書」「履修者へのメッセージ」を記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 様式第2号の3より再掲 授業計画 (シラバス) 策定時、①試験、②レポート、③ (授業内) 小テスト、レポート、④平常点 (学習意欲、履修態度等)、⑤その他の評価方法を適切に用いて成績評価を行うよう計画をしている。また、成績評価実施時は、当該授業科目の到達目標に照らし、評価基準を以下のように定め、厳正な成績評価を実施している。
(成績評価) (素点) (内容)
S 90~100点 到達目標を超えたレベルを達成している
A 80~89点 到達目標を達成している
B 70~79点 到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している
C 60~69点 単位修得目標を達成している
D 59点以下 単位修得目標を達成できていない
※到達目標：当該授業科目が目指す学修成果のレベル 単位修得目標：当該授業科目で最低限修得すべき学修成果のレベル (科目の成績評点 (GP) ×単位数) + ... + (科目の成績評点 (GP) ×単位数) ÷登録科目の総単位数 (評価 D・X の単位数も含む)

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表している。各学部において、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムチェックを実施し、各授業科目の到達目標を定めている。各授業科目においては、到達目標の達成水準を基準に成績評価を行っている。したがって、各授業科目における成績評価を適切に行うことで、適正な単位の認定が行われ、卒業要件単位を満たすことにより、ディプロマ・ポリシーの要件を満たすことを保証している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
家政学部	被服学科	124 単位	有・無	44 単位
	食物栄養学科	124 単位	有・無	44 単位
	建築・デザイン学科	124 単位	有・無	44 単位
	児童学科	124 単位	有・無	44 単位
文芸学部	文芸学科	124 単位	有・無	44 単位
国際学部	国際学科	124 単位	有・無	44 単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	44 単位
ビジネス学部	ビジネス学科	124 単位	有・無	44 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/campus/kyoritsu-wu_guide_u.pdf			

<p>学生の学修状況に係る参考情報</p> <p>(任意記載事項)</p>	<p>公表方法：</p> <p>https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/undergraduate/asesumento.pdf</p> <p>https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/undergraduate/asesumento.pdf https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/disclosure/student-info/</p>
---------------------------------------	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/disclosure/campus-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
家政学部	被服学科 建築・デザイン学 科 児童学科	760,000 円	150,00 0円	450,000円	施設設備維持費 390,000円 実験実習料 60,000円
	食物栄養学科 食物学専攻	780,000 円	150,00 0円	450,000円	施設設備維持費 390,000円 実験実習料 60,000円
	食物栄養学科 管理栄養士専攻	780,000 円	150,00 0円	460,000円	施設設備維持費 390,000円 実験実習料 70,000円
文芸学部	文芸学科	680,000 円	150,00 0円	390,000円	施設設備維持費 390,000円
国際学部	国際学科	720,000 円	150,00 0円	390,000円	施設設備維持費 390,000円
看護学部	看護学科	1,230,0 00円	150,00 0円	470,000円	施設設備維持費 390,000円 実験実習料 80,000円
ビジネス学 部	ビジネス学科	750,000 円	150,00 0円	390,000円	施設設備維持費 390,000円

9 大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康などに関わる支援に関する
こと

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 担任制度により年度始めに全員面談を実施している。 教務課で年4回出席状況を集計し、欠席率が低い(67%未満)学生の情報を学部に連絡、担任が面談した記録をシステムに記録、記録内容は教職員で共有している。 GPAの低い学生について、年度末に保証人に通知し、学部では履修指導を行う。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 個別相談やキャリアガイダンス/プログラムの実施、インターンシップ支援、各種資料の公開等を行い、学生個々の進路選択を支援している。また、転学部・転学科・転専攻の制度も設け進路変更への支援も行う。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室では、学生生活に関する相談に応じ、必要に応じて関係部署と連携を図っている。「学生相談室だより」などで心の成長や健康に関する情報を発信している。教職員対象の研修会を開催し、学生への支援方法を習得する機会としている。 保健室では、毎年健康診断時に全学生との問診を実施し、健康状態と修学支援の確認をしている。また結果を元に学校医との面談を実施している。年に3~4回「保健室だより」を発信し、健康や感染症の予防と対応について情報提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/

様式第2号の4（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310102975
学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		307人	306人	－
内訳	第Ⅰ区分	166人	174人	
	第Ⅱ区分	75人	86人	
	第Ⅲ区分	66人	46人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				337人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	-	-	-
計	-	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	-	0人	0人
GPA等が下位4分の1	29人	-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-	-	-
計	33人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。